

第7章 防災指針

災害ハザードが想定されている範囲を居住誘導区域から除外することは、既に市街地が形成されていることが多く現実的に困難なことが想定されます。このため、居住誘導区域で災害ハザードが想定されているエリアにおいては、災害リスクをできる限り回避あるいは低減させるため、必要な防災・減災対策を計画的に実施していくことが求められます。

このため、防災指針は、居住や都市機能の誘導を図る上で必要となる都市の防災に関する機能の確保を図るための指針であり、当該指針に基づく具体的な取組と併せて立地適正化計画に定めるものです。

立地適正化計画作成の手引き（国土交通省）を参照し、以下のフローを基本に防災指針を整理します。

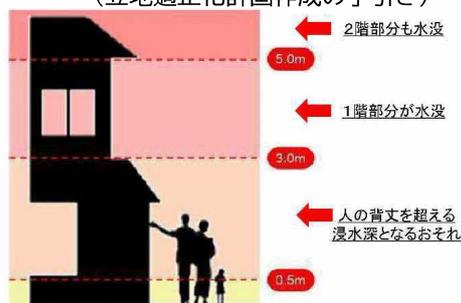
図 防災指針の検討フロー

7-1 災害ハザードの整理と防災・減災まちづくりに向けた課題の抽出

(1) 災害ハザードの整理

- ・ 本町において想定されている災害ハザードについて、災害種別、発生頻度等の情報を収集・整理
- ・ 水災害については、国資料を参照して浸水深と想定される被害の関連性等を踏まえて整理

浸水深と人的被害リスクイメージ
(立地適正化計画作成の手引き)



※洪水浸水想定作成マニュアル(第4版)から抜粋した図を一部加工

津波浸水深に関する参考指標（南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）（H24年））

浸水深	想定される被害等
3m	木造家屋のほとんどが全壊する
2m	木造家屋の半数が全壊する
1m	津波に巻き込まれた場合、ほとんどの人が亡くなる
0.3m	避難行動がとれなく(動くことができなく)なる

(2) 災害ハザードが想定される地域の抽出

- ・ 災害ハザード情報の整理を踏まえて災害ハザードが想定される地域を抽出

(3) 地域ごとの防災上の課題の整理

- ・ 抽出した地域について、災害種別に防災上の課題を整理

7-2 防災まちづくり取組方針の検討

(1) 防災まちづくりの考え方の整理

- ・ 防災上の課題を踏まえた防災まちづくりの考え方を整理

(2) 取組方針

- ・ 防災まちづくりに基づき取組方針を整理

7-3 具体的な取組、スケジュール

- ・ 具体的な取組及びスケジュール（短期・中期・長期）を整理

※目標値は評価指標で設定

7-1 災害ハザードの整理と防災・減災まちづくりに向けた課題の抽出

(1) 災害ハザードの整理

本町において想定されている災害ハザード情報は以下のようなものがあります。

表 本町において想定されている災害ハザード情報

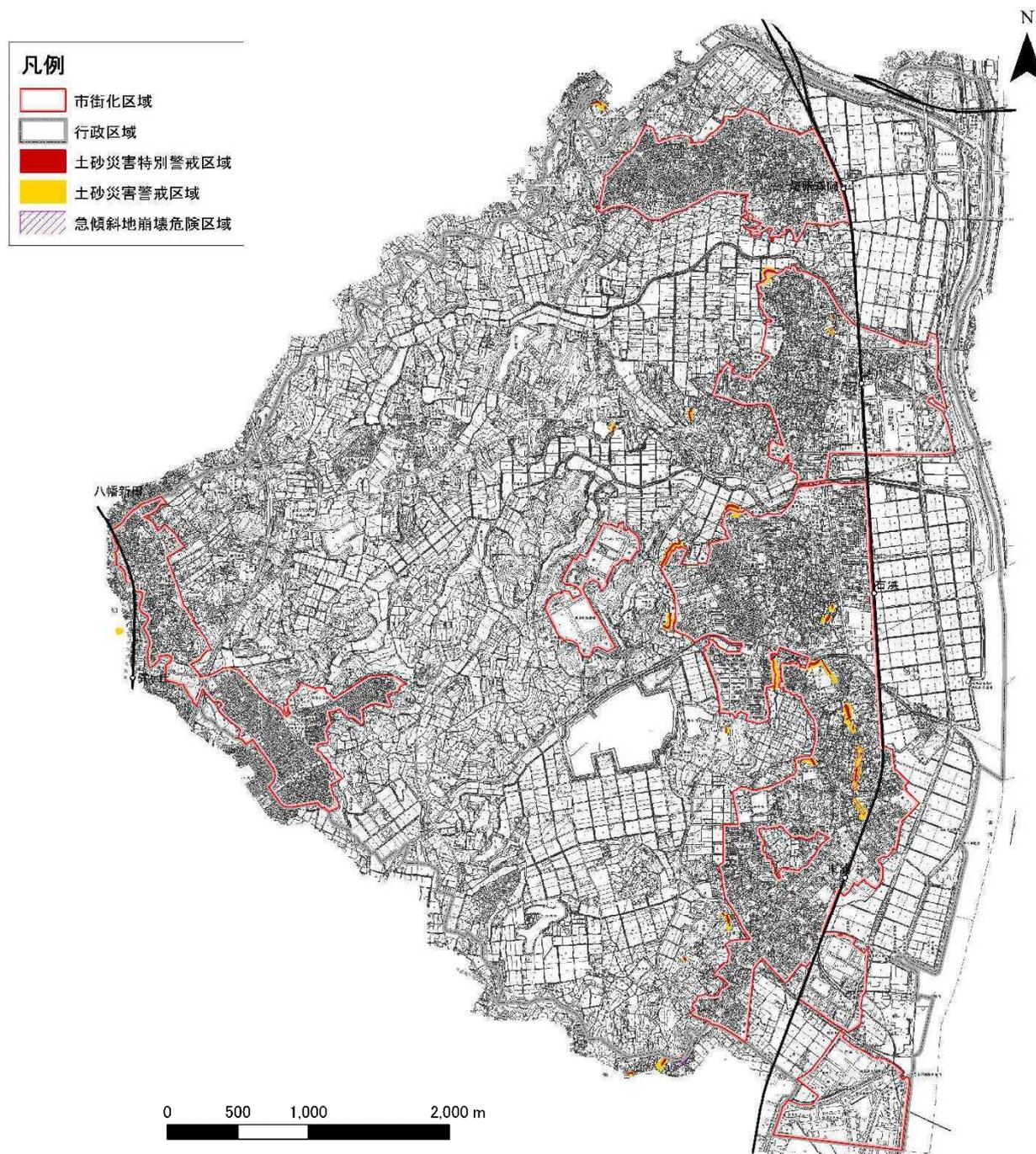
種別	発生頻度・規模	区域
土砂災害	—	土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域 急傾斜地崩壊危険区域
	—	(参考)大規模盛土造成地 ※以下のいずれかに該当するもの 谷埋め型…谷を埋めて、平坦面を確保した造成宅地で、盛土の面積が 3,000 m ² 以上のもの 腹付け型…傾斜地に盛土した造成宅地で、地山(盛土前の地盤)が 20 度以上、かつ盛土の高さが 5m 以上のもの
水災害	L1	洪水浸水想定区域(計画規模) ※河川整備において基本となる降雨による浸水(100年に一度の確率) ※シミュレーションの前提となる 24 時間総雨量:境川流域 411 mm、逢妻川流域 410 mm ※水防法で指定された河川において作成する浸水想定区域に加えて、水防法の指定区間外(上流部や支川)について作成された浸水予想図(境川、阿久比川 鎌池川)を含む
		高潮浸水想定区域(伊勢湾台風規模) ※伊勢湾台風規模(50~150年に一度の確率)による浸水 ※中心気圧 940hPa で、高潮偏差が最大となる代表台風コースを通り、海岸堤防等の構造物については、決壊しない条件でシミュレーション
		(参考)内水浸水想定区域 ※100年に一度の確率の降雨 ※出典:東浦町上下水道課によるシミュレーション結果
		(参考)内水浸水想定区域 ※10年に一度の確率の降雨 ※出典:東浦町上下水道課によるシミュレーション結果
	L2	洪水浸水想定区域(想定最大規模) ※想定し得る最大規模の降雨(千年に一度の確率)による浸水 ※シミュレーションの前提となる 24 時間総雨量:境川流域 760 mm、逢妻川流域 765 mm ※水防法で指定された河川において作成する浸水想定区域に加えて、水防法の指定区間外(上流部や支川)について作成された浸水予想図(境川、阿久比川 鎌池川)を含む
		津波災害警戒区域 ※最大クラス(千年以上に一度の確率)の津波を対象に浸水の区域及び水深を設定 ※内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」公表(H24.8.29)の想定地震津波(マグニチュード 9.1)を想定
		高潮浸水想定区域(想定最大規模) ※室戸台風規模(5百年から数千年に一度の確率)による浸水 ※中心気圧 910hPa で、高潮偏差が最大となる代表台風コースを通り、海岸堤防等の構造物が設計条件に達した時点で決壊する条件でシミュレーション
		(参考)内水浸水想定区域(想定最大) ※想定し得る最大規模の降雨(千年に一度の確率) ※出典:東浦町上下水道課によるシミュレーション結果
	—	(参考)ため池浸水想定区域 ※満水の水が溜まっているため池の堤体が決壊した場合の浸水

L1	<ul style="list-style-type: none"> 洪水は各河川整備における計画に定められた規模の災害(計画規模) 高潮は過去に発生した最大規模の災害(伊勢湾台風規模) 内水は10年~100年に1度の確率で発生する降雨による災害
L2	<ul style="list-style-type: none"> 洪水、津波、高潮、内水における発生頻度は低いものの、想定し得る最大規模の災害

■土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域・急傾斜地崩壊危険区域

土砂災害が想定されている地区は町東部の市街化調整区域に分布する傾向にありますが、市街化区域の一部でも見られ、また、住宅も立地しています。

図 土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域・急傾斜地崩壊危険区域

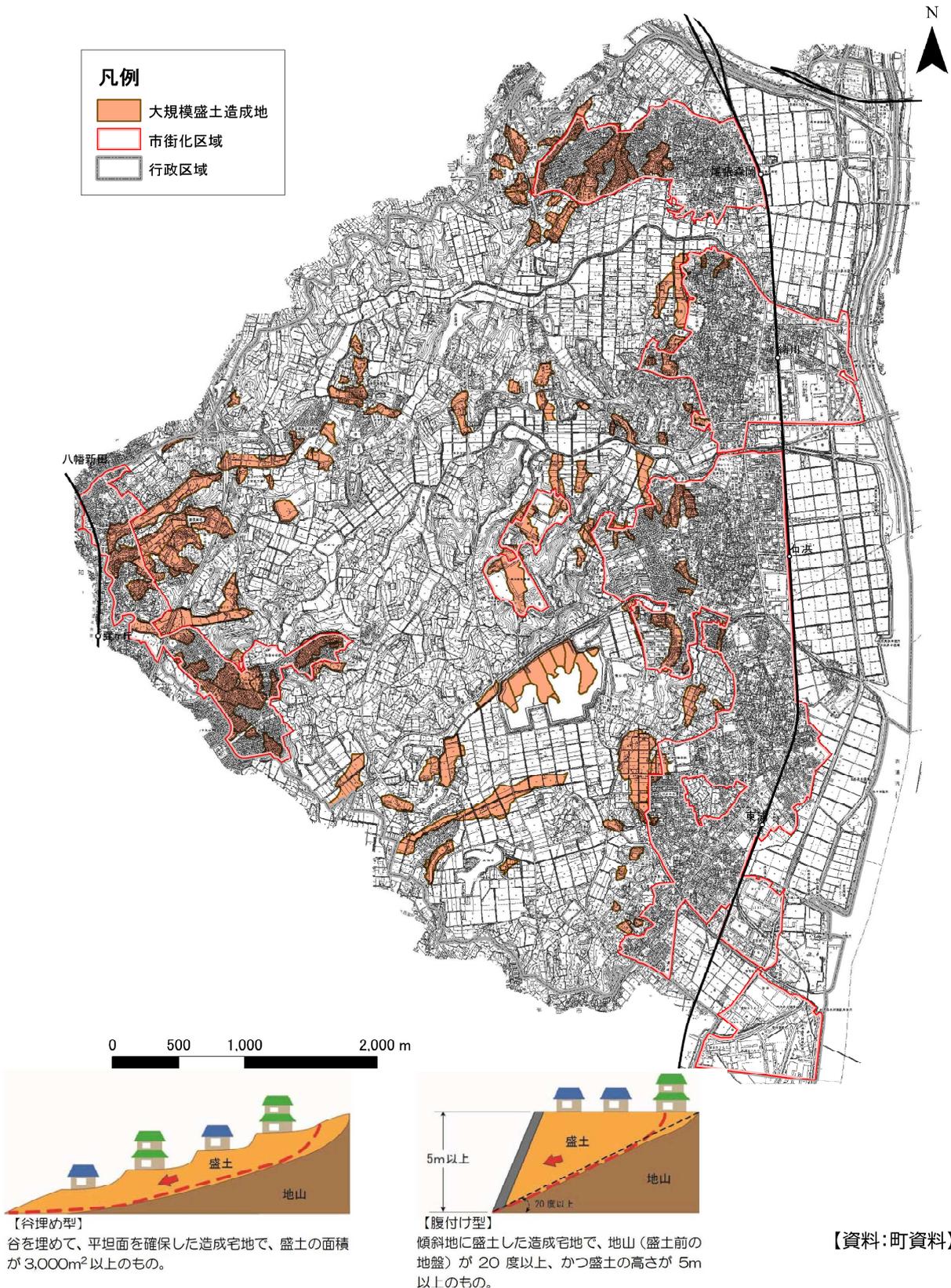


【資料:愛知県オープンデータ】

(参考) 大規模盛土造成地

今後調査を実施していく大規模盛土造成地は、本町全域に分布しており、市街化区域の住宅団地においてもみられます。

図 大規模盛土造成地

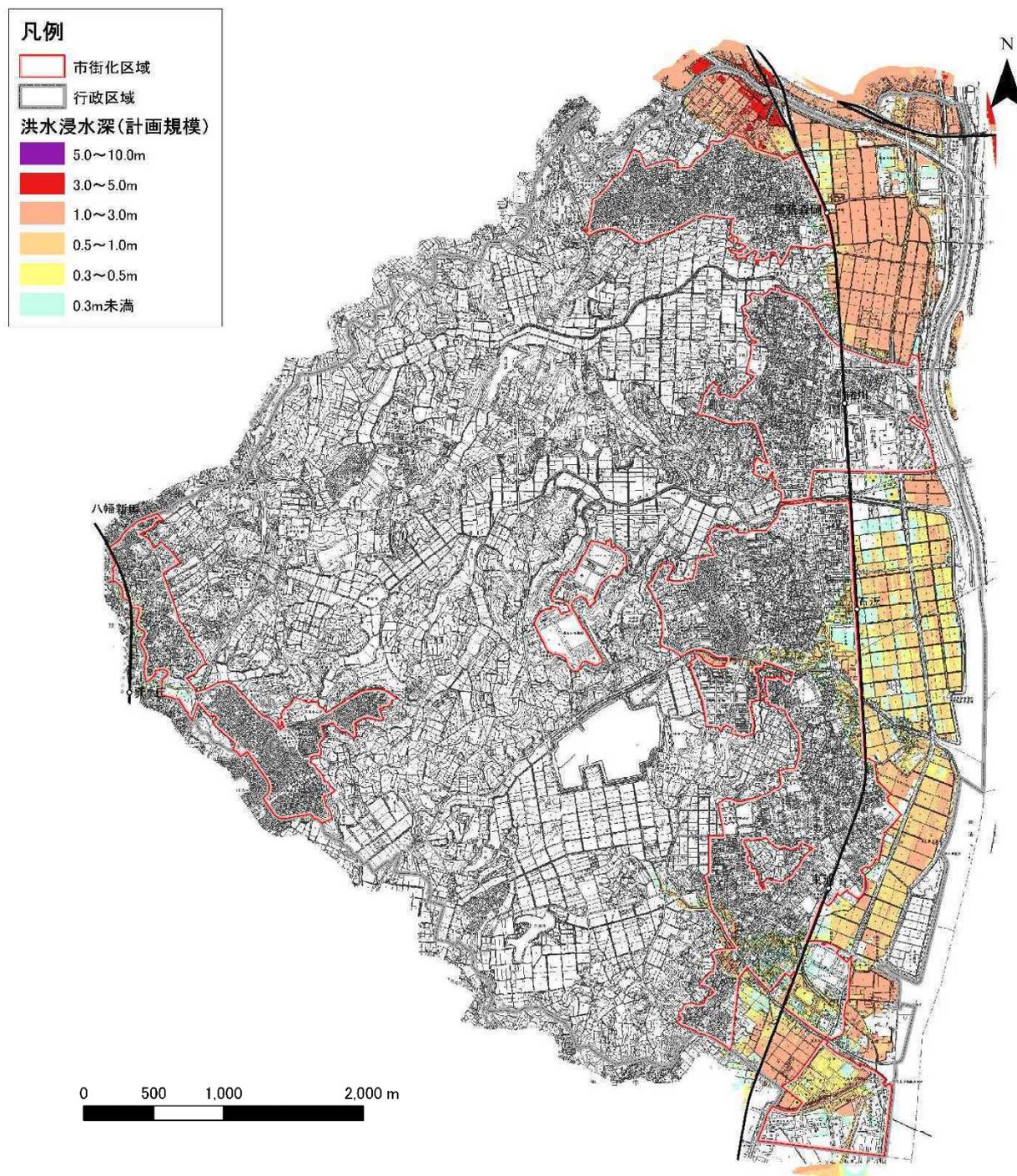


※大規模盛土造成地の変動予測調査ガイドラインの解説（国土交通省）より

■洪水浸水想定区域（計画規模）

町東部の鉄道東側の市街化調整区域を中心に浸水想定区域が広がっています。また、床上浸水被害が想定される浸水深 0.5m以上の浸水想定区域が市街化区域の一部で見られます。ハード整備には長期間を要するため、それまでの間は想定される浸水に対する対策が必要です。

図 洪水浸水想定区域（計画規模）



※河川整備において基本となる降雨による浸水(100年に一度の確率)

※シミュレーションの前提となる24時間総雨量:境川流域 411mm、逢妻川流域 410mm

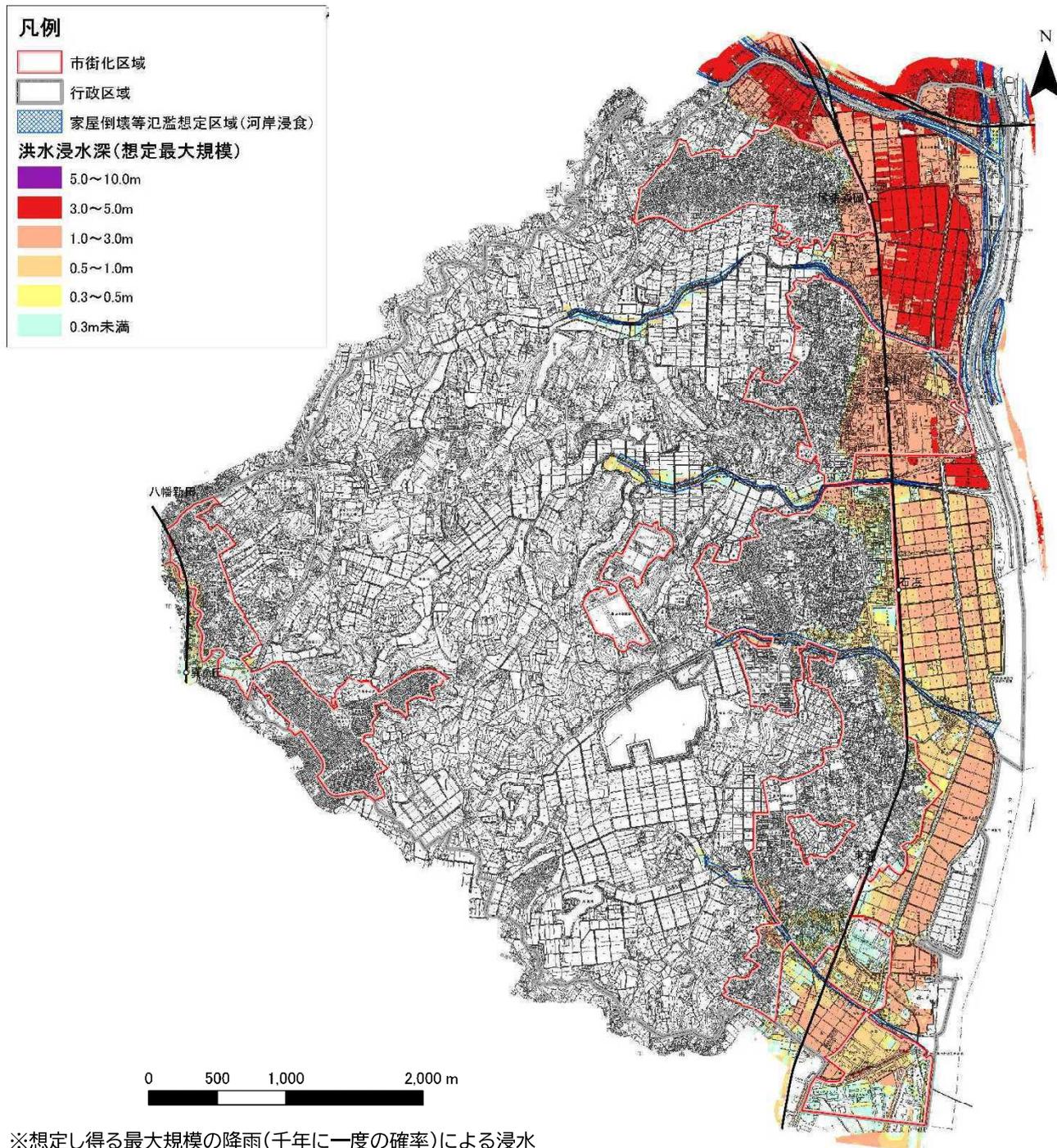
※水防法で指定された河川において作成する浸水想定区域に加えて、水防法の指定区間外(上流部や支川)について作成された浸水予想図(境川、阿久比川、鎌池川)についても示す

【資料:愛知県資料】

■洪水浸水想定区域（想定最大規模）

町東部の市街化調整区域を中心に浸水想定区域となっています。計画規模と比較して鉄道の西側まで浸水想定区域が広がっています。床上浸水被害が想定される浸水深 0.5m以上の浸水想定区域が鉄道駅西側の市街化区域にもみられますが、垂直避難が困難な浸水深 3.0m以上の浸水は市街化区域ではほとんどみられません。一方、家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）が町内を流れる各河川沿いの地域でみられ、一部で住宅も立地しています。

図 洪水浸水想定区域（想定最大規模）



※想定し得る最大規模の降雨(千年に一度の確率)による浸水

※シミュレーションの前提となる 24 時間総雨量:境川流域 760 mm、逢妻川流域 765 mm

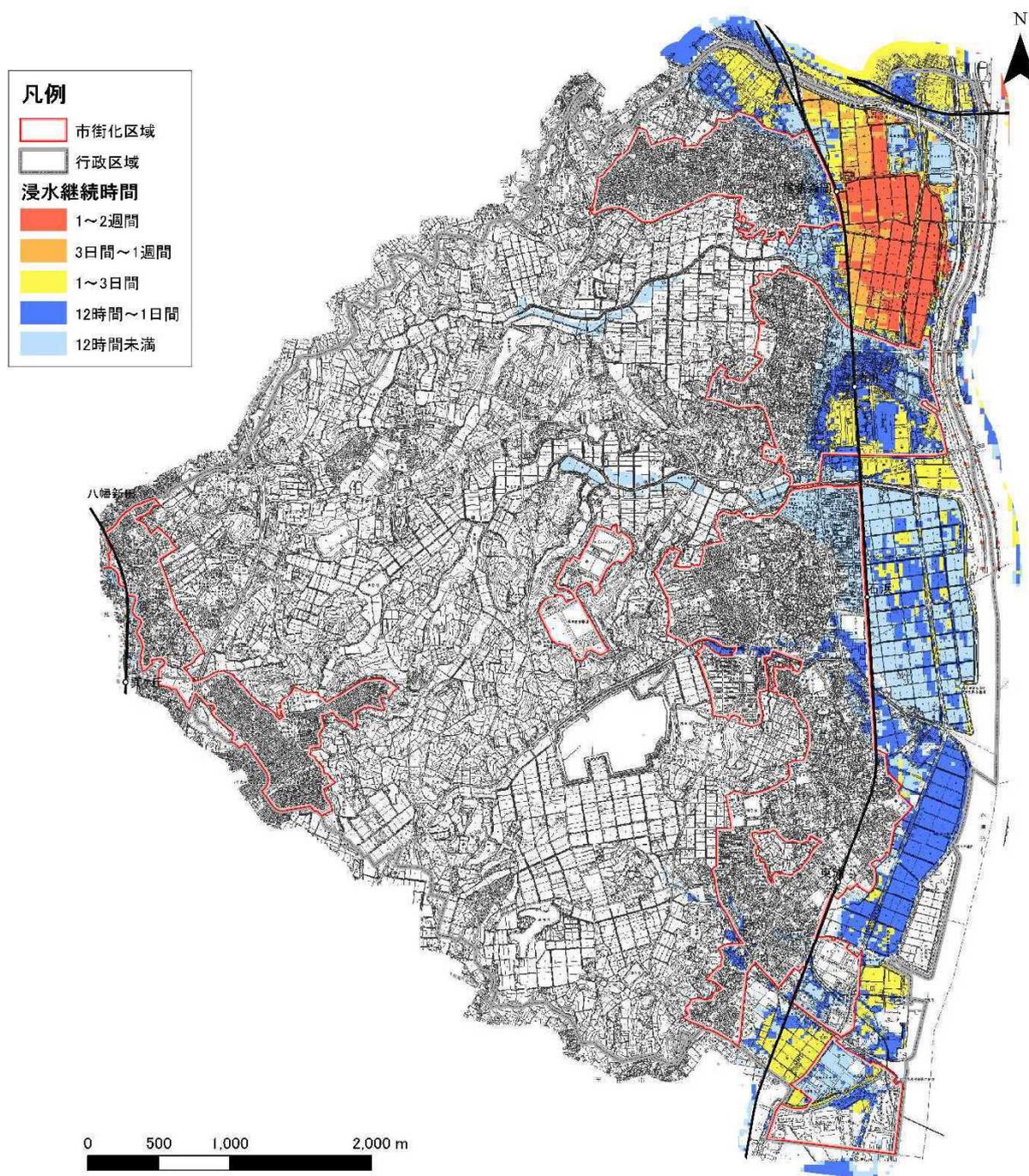
※水防法で指定された河川において作成する浸水想定区域に加えて、水防法の指定区間外(上流部や支川)について作成された浸水予想図(境川、阿久比川 鎌池川)を含む

【資料:愛知県資料】

■洪水浸水想定区域（想定最大規模：浸水継続時間）

想定最大規模の洪水による浸水深 0.5m 以上の浸水想定区域における浸水継続時間をみると、尾張森岡駅周辺の市街化調整区域の農地では3日～2週間と長期の浸水が予想されています。市街化区域では、緒川駅周辺で1～3日間の浸水が予想されていますが、健康障害の発生や最悪の場合は生命の危機が生じる恐れがあるとされる3日以上孤立が想定される市街地はみられません。

図 洪水浸水想定区域（想定最大規模：浸水継続時間）



※想定し得る最大規模の降雨(千年に一度の確率)による浸水が継続する時間

※浸水継続時間:浸水深 0.5m以上が継続する時間

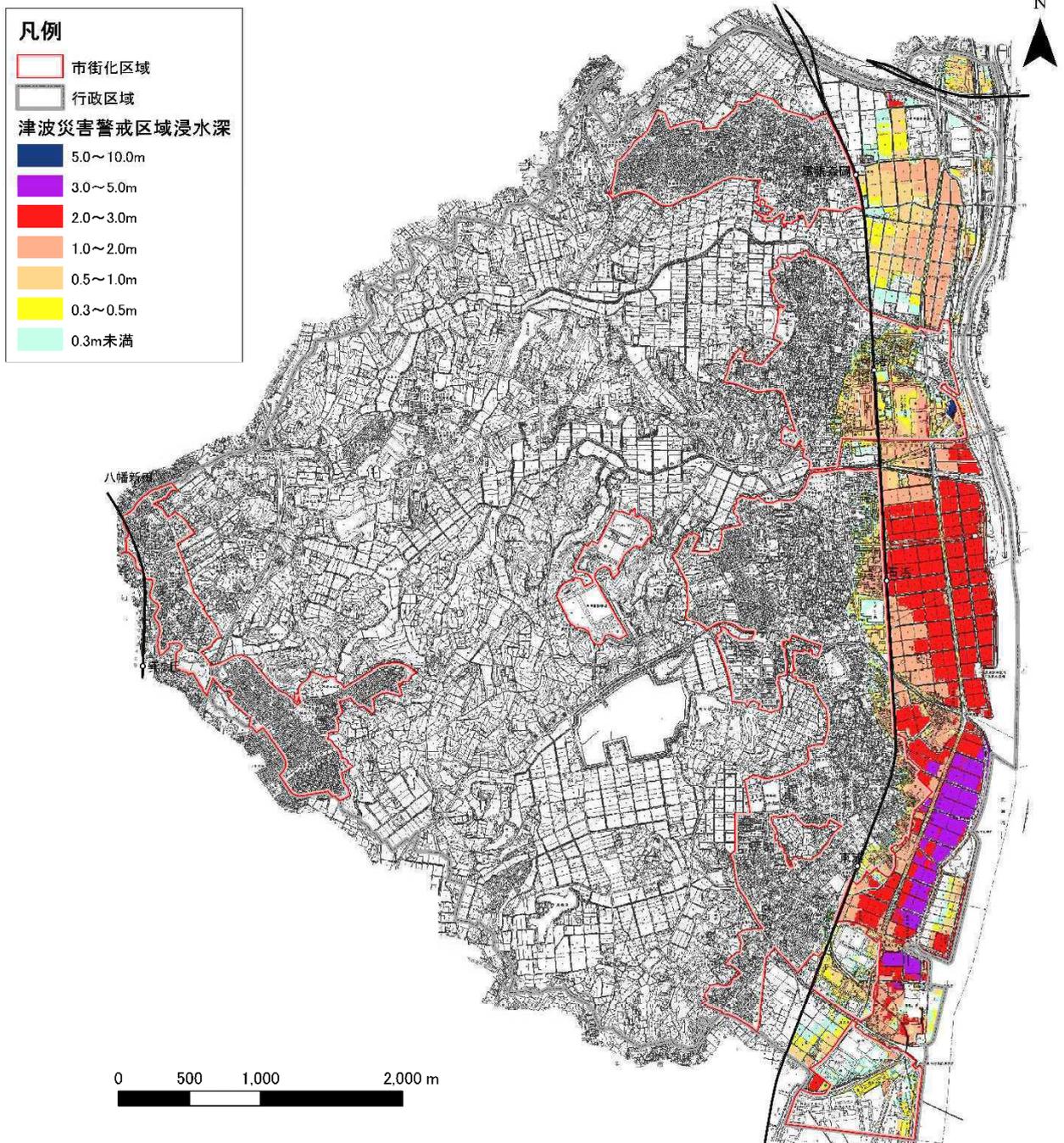
【資料:愛知県資料】

■津波災害警戒区域

町東部の鉄道東側の市街化調整区域を中心に浸水想定区域がみられます。津波に巻き込まれた場合、ほとんどの人が亡くなるとされる浸水深 1.0m以上の浸水想定区域が鉄道駅西側の市街化区域にもみられますが、木造家屋の半数が全壊する目安となる浸水深 2.0m以上の浸水は市街化区域内ではほとんどみられません。

一方、想定される津波は、地震発生からの津波到達時間が約 83 分と避難に要する時間確保が可能です。

図 津波災害警戒区域



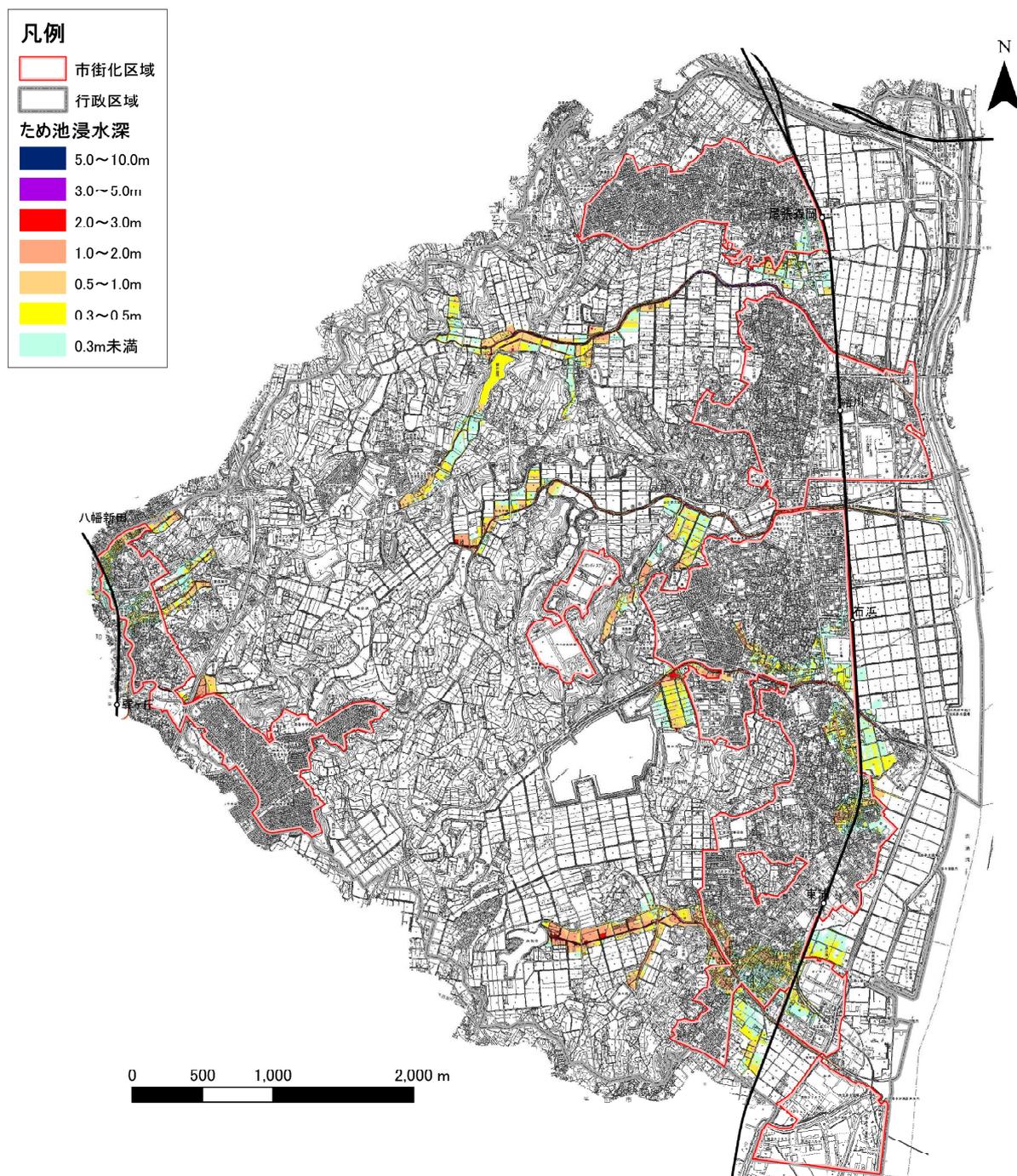
※最大クラス(千年以上に一度の確率)の津波を対象に浸水の区域及び水深を設定
 ※内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」公表(H24.8.29)の想定地震津波(マグニチュード 9.1)を想定

【資料:愛知県資料】

(参考) ため池浸水想定区域

ため池は町中央の丘陵部を中心に分布し、ため池の堤体が決壊した場合の浸水は農地を中心にみられますが、市街化区域の一部まで浸水が到達することが想定されます。

図 ため池浸水想定区域



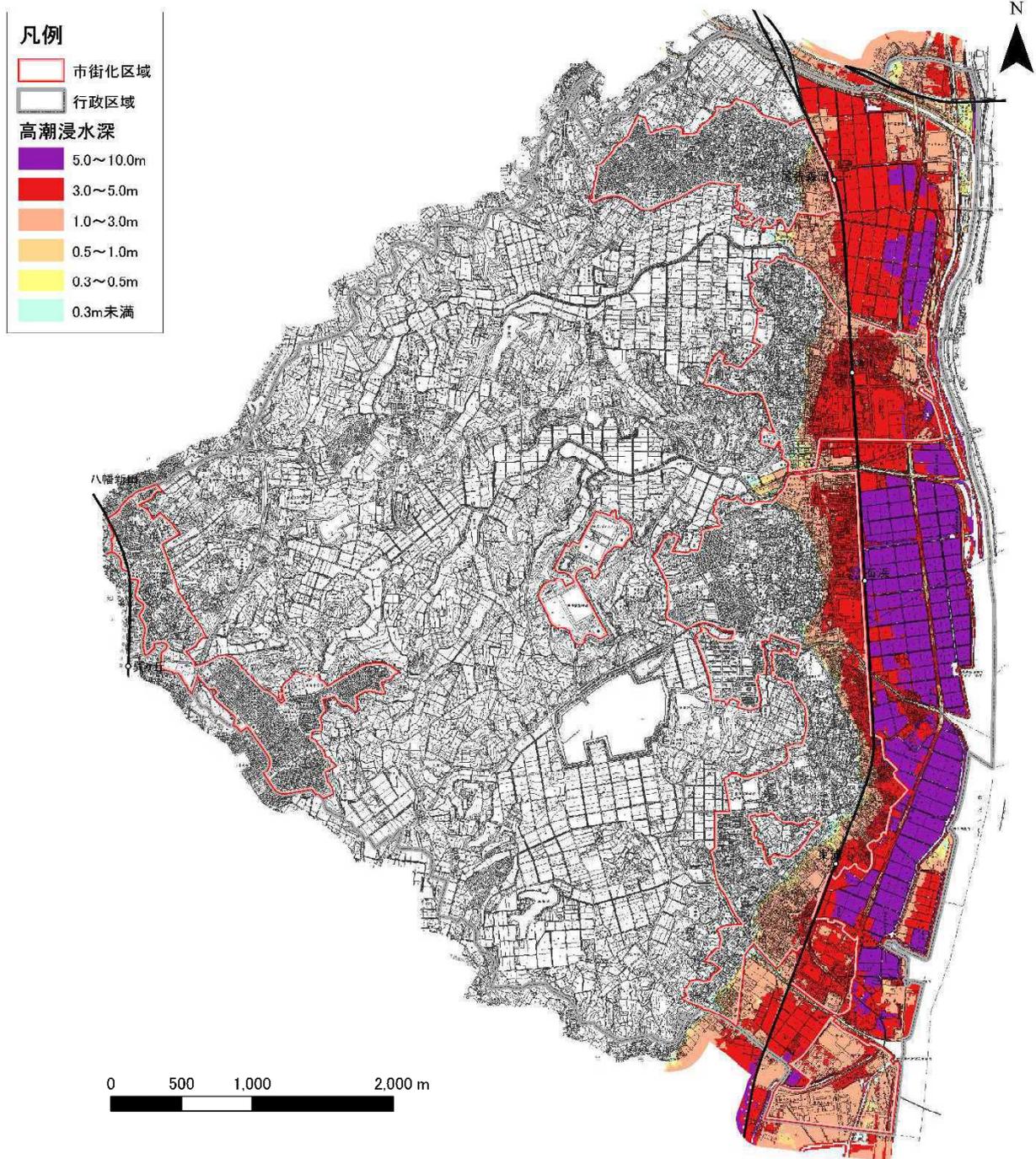
※満水の水が溜まっているため池の堤体が決壊した場合の浸水

【資料:町資料】

■高潮浸水想定区域（想定最大規模：室戸台風規模）

町東部の市街化調整区域を中心に浸水想定区域がみられ、鉄道の西側まで浸水想定区域が広がっています。また、垂直避難が困難な浸水深 3.0m以上の浸水が鉄道西側の市街化区域においてもみられ、都市拠点に位置付けられた緒川駅をはじめ、生活の拠点となる鉄道駅周辺の市街地でも深い浸水深が想定されています。

図 高潮浸水想定区域（想定最大規模：室戸台風規模）



※室戸台風規模(5百年から数千年に一度の確率)による浸水
 ※中心気圧 910hPa で、高潮偏差が最大となる代表台風コースを通り、海岸堤防等の構造物が設計条件に達した時点で決壊する条件でシミュレーション

【資料：愛知県資料】